

マタイの福音書 第5章 3節

「幸いなるかな、こころの貧しい者。天の御国はその人たちのものだから。」

通りを急ぐ自転車の光景が度々この欄に登場する。生活そのものが道路上ににじみ出ているところから、一瞬の光景が、映画の一コマ、一カットのように飛び込んでくる。それも、脚色された映像ではなく、今ここでまさに起こっている出来事としての一コマである。それだけに、その光景に出会う者を刺激する。

今日は父親が4～5歳ぐらいの男の子を自転車の前に乗せて坂を下ってきた。降る勢いから生まれるスピード感が幼子の表情をとらえている。怖がっている様子でもない。かと言ってスピードに酔い、楽しんでいるような余裕もなさそうだ。いずれにしても、父親まかせの坂下りである。もはや選択肢はない。

すれ違いざまに幼子から聞こえた言葉に驚いた。「しあわせ」と言いあつという間に過ぎ去った。こちらは徒歩、あちらは坂下りの自転車。4～5歳の男の子の口から生まれた、「しあわせ」の言葉はどこからきたのだろうかと考えさせられた。普段なにかの機会に聞いていなければ出てこない言葉である。周りに、「しあわせ」の言葉を語らせる雰囲気があるに違いない。そして、そのような環境で、「しあわせ」の言葉が口元から生まれる体験をしているに違いない。

2022年3月1日